



天ぶら油を注ぎ入れる市民。回収ボックスは島内10カ所に月1回設置される＝市役所両津支所

一般家庭の廃食油回収3ヵ月

市民に浸透 着々1100ℓ

BDF活用へ手応え

市来年度から回数を増加

市が八月から一般家庭を対象にスタートした使用済み食用油の回収事業が浸透し始めた。これまで月一回の計三回実施し、約千五百ℓを回収。市企画振興課は「今年は周知の段階。まだ満足できる量ではないが、反響もあり、ますますの出だし」と評価、来年度からは回収回数を増やすとともに拠点を広げる方針だ。

同事業は家庭から出る廃食油を回収し、島内の企業二社が精製、軽油の代替燃料「バイオディーゼル燃料（BDF）」として、両社のごみ収集車

の燃料に活用している。市は市役所と各支所の計十カ所に月一回、回収用のポリ容器を設置。婦人会や消費者協会が協力し、菜種や大豆などの植物油の食用油に限り回収している。

三回目となった十月下旬の回収日には両津支所に次々と市民が訪れ、慣れた手つきで回収容器に廃食油をつぎ入れていった。梅津の主婦（仮名）は「これまで捨てる処理が大変だった。捨てていた油が役に立つならうれしい」と歓迎する。

一方、廃食油を精製処理する「アイマーク環境」（潟端）は、BDFをごみ収集車とパキウム車に利用している。軽油と比べ性能差はないといいい、三月から旅館やスーパー、飲食店を中心に回収を開始。八月から市回収分も加えた。市民の反応についても「関心が高くなっている。まだ必要

量には足りていないが、確実に増えている」と手応えを感じている。

市は昨年度、学校給食センターなどの廃食油でBDFを精製する事業を

開始。これまでに約八千ℓを回収し、佐和田支所の公用車七台の燃料を賄っている。本年度は取り組みをさらに拡大、回収対象を一般家庭へ広げた。年度内は月一回ペースで回収を続け、来年度以降は回数を増やす計画だ。回収拠点も地元スーパーなどに協力を呼び掛けて増やし、利便性を高めたとしている。

市企画振興課は「回収拠点がまだ少ないので、野に入れている。

出したくても出せない人もいる。取り組みを浸透させ、集落や地域ごとに回収できるようにしたい」と話している。

また将来的に回収事業が軌道に乗り、十分な量が確保された場合は、軽油にBDFを5%混合して一般販売することも視野に入れている。